

胆振東部地震現地調査速報 厚真町朝日

2018年9月9日

2018年10月3日修正

日本地すべり学会北海道支部調査班

田近淳(ドーコン)・永田秀尚(風水土)・雨宮和夫(防災
地質工業)

要旨

- 9月6日の北海道胆振東部地震で群発した斜面崩壊について9月8日厚真町朝日の2か所で予察的な観察を行った。
- 崩壊はこの地域の台地山地の斜面を被覆する樽前dテフラ(約9000年前)が、古土壌との境界面から高速で滑動したもので、アーススライド(土砂のすべり)といえる。
- このような降下火砕物のすべりは東北地方太平洋沖地震の際の白河市葉ノ木平地すべりや熊本地震での火山研究所地すべりなどに共通するタイプである。
- なお、空中写真判読等によれば、他にも流動すべりなど他のタイプの地すべりがあるとみられることから今後調査を継続する予定である。

観察箇所

厚真町朝日

国土地理院正射画像



崩壊A

崩壊B

崩壊A全景

- 幅約20m
- 全長約50m
- 崩壊の深さ約2.5m



崩壊A崩壊源(滑落面)

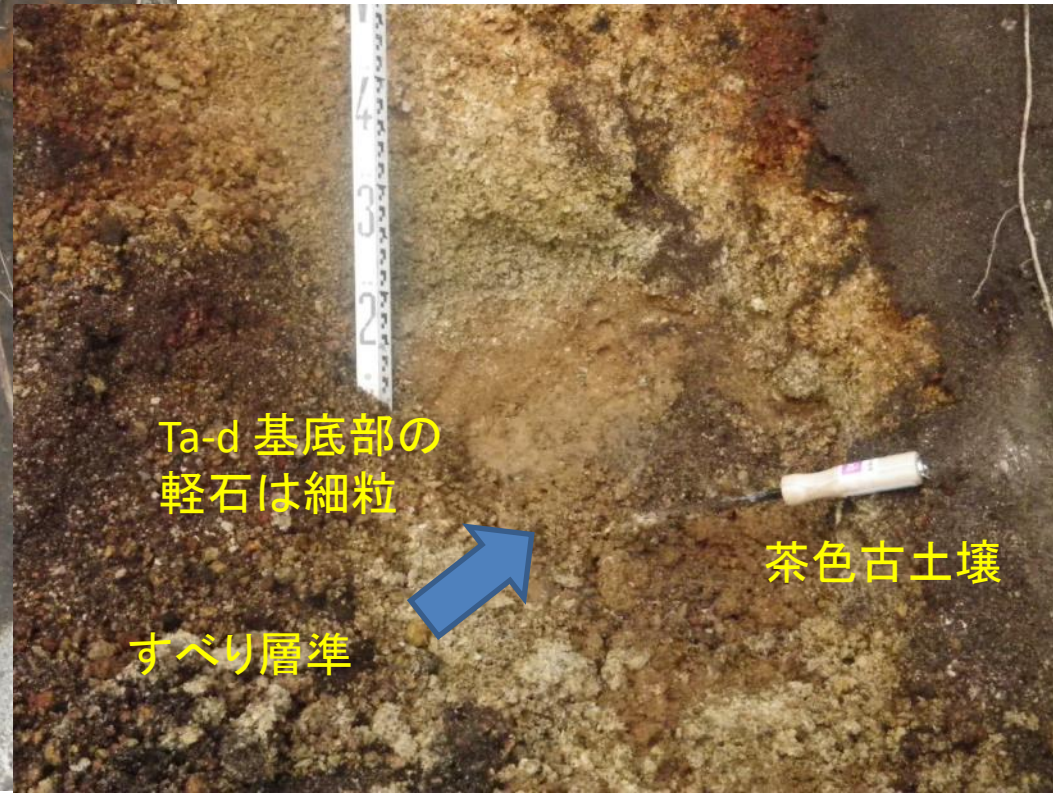


← 滑落面の上を
おお風化軽石
含水している
傾斜20度
泥水の流下痕が
認められた

すべり面が露出. 茶色の角礫まじり硬質粘土(古土壌: 矢印)の上にぬるぬるの褐色～黄褐色粘土が載る→



層序とすべり面の の層準(崩壊A)



崩壊A末端部

先端は道路を超えた
倒木は前傾のものが多く
並進すべり



末端付近に数mの崖がある. もともと崖であつた可能性が大きい. 下部切断斜面.



左側方下部の露頭
新第三紀礫岩が分布

崩壊B

- 幅約20～50m
- 全長約150m
- 比高約35m
- 崩壊の深さ約3m

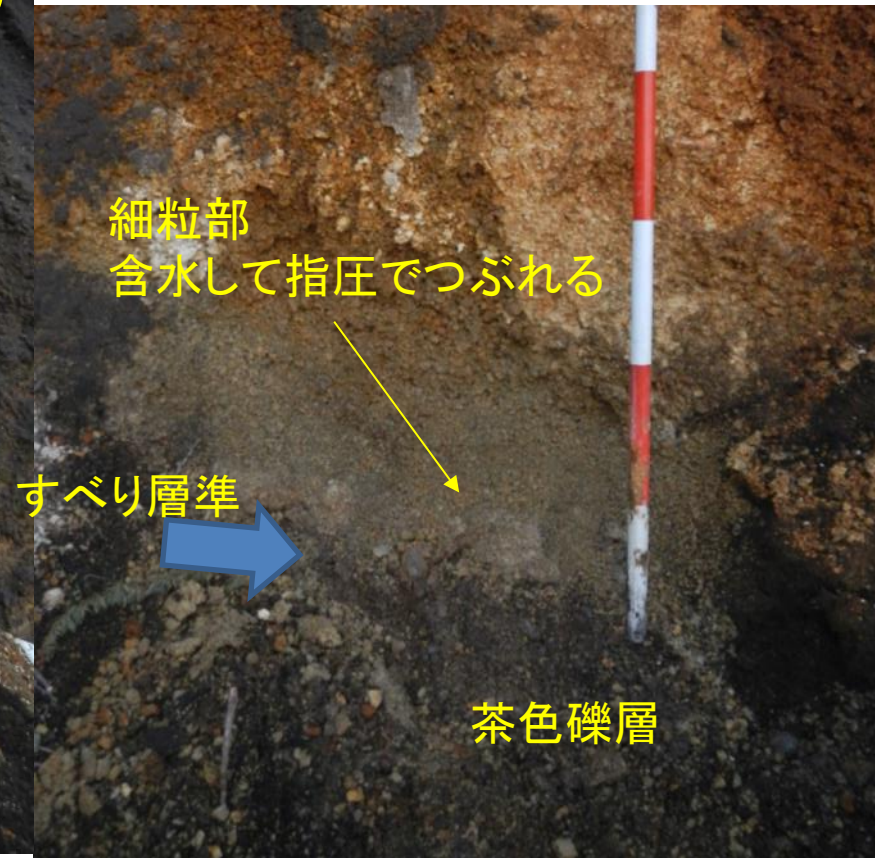
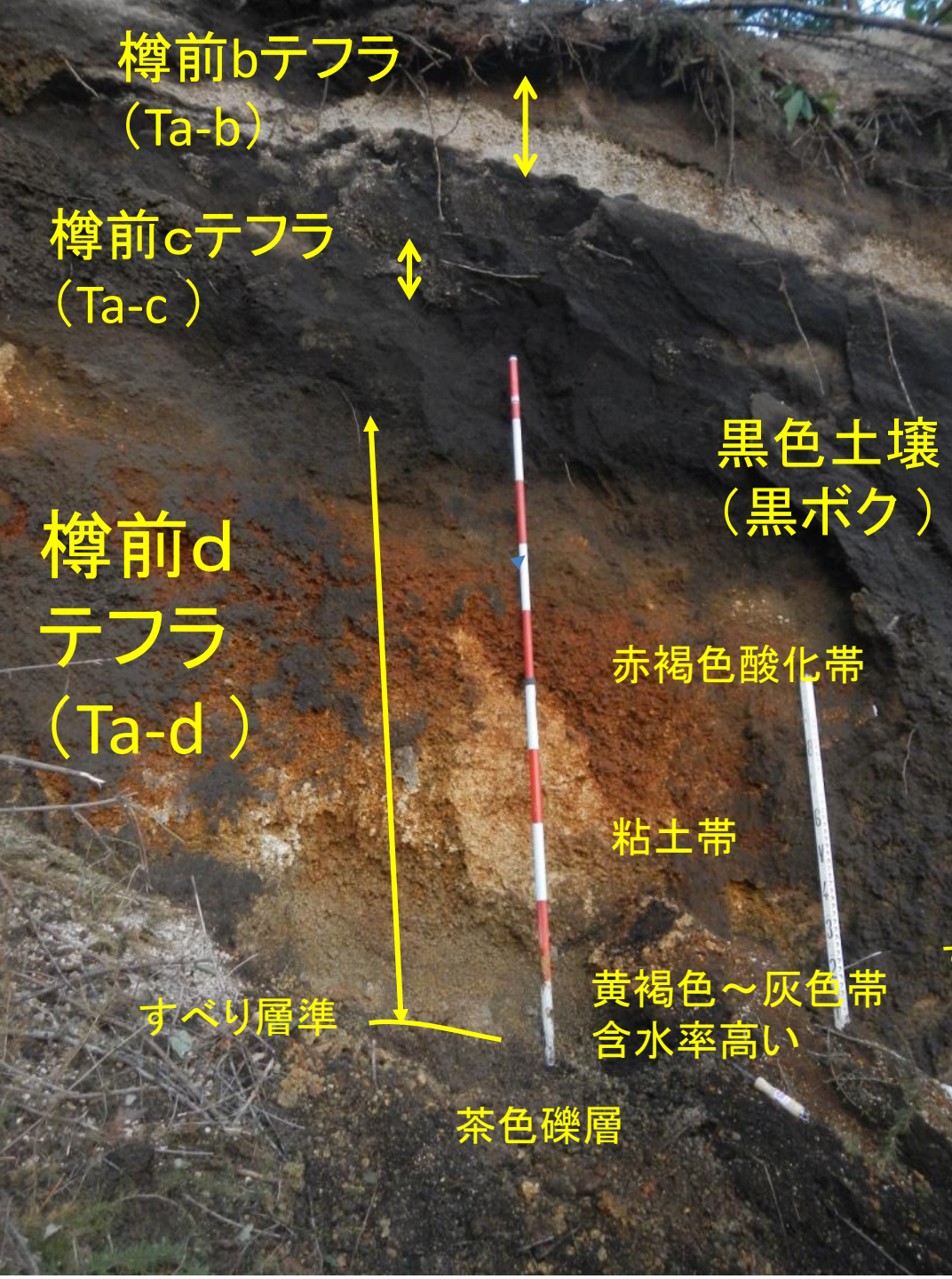


B崩壊源(滑落面)



すべり面が露出. 茶色の円礫層(古
土壌または谷埋め堆積物)の上に
ぬるぬるの褐色~黄褐色粘土が載
る. 傾斜20度
表面は黒色土壌や軽石が覆う

層序とすべり面の の層準(崩壊B)





- 崩壊Bの移動体は斜面下にあった家屋を襲った。お2人の犠牲者並びにご家族様に謹んで哀悼の意を表します。

崩壊B：移動体はほぼ元の層序を保って移動→並進すべり



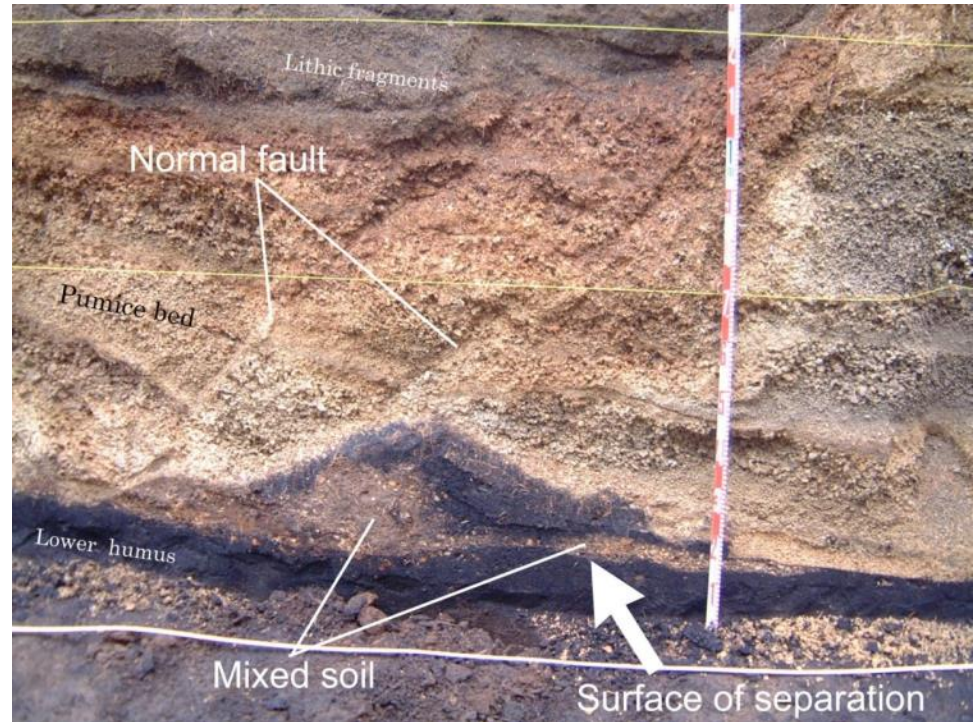
開削された移動体
道路面は破壊されていない

先端部



参考

- 厚真地域では縄文時代にも地震によるとみられる地すべりが発生したと考えられている。
- その地すべりは今回と同様に樽前dテフラの基底から発生し、高速の並進すべりだったことが推定されている。
- 文献：田近淳・大津直・乾哲也 (2016) 成層した降下火砕堆積物からなる地すべり移動体の内部構造と形成過程：石狩低地東縁，厚幌1遺跡の例. 地質学雑誌, 122, 23-35.
- https://www.jstage.jst.go.jp/article/geosoc/122/1/122_2015.0037/_pdf/-char/ja



速報版(9月9日)に大きな誤りがありました。
謹んでお詫びいたしますと共に訂正加筆させていただきます。

【タイトル】

(誤)胆振東部地震現地調査速報桜丘地区→胆振東部地震現地調査速報朝日地区

【2ページ】

(誤)厚真町桜丘→厚真町朝日

【3ページ】

(誤)調査箇所厚真町桜丘→調査箇所厚真町朝日

【11ページ】

(誤)斜面下にあった家屋を押しつぶし、1名の犠牲者を出した。→斜面下にあった家屋を襲った。お2人の犠牲者並びにご家族様に謹んで哀悼の意を表します。

(2018年10月3日)